

耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性				
		(※) 震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。 いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生じるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。				
		I 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い	II 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある	III 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い		
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート(RC)造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)		Is/Is0 < 0.5又は	$C_{TU} \cdot S_D < 0.15$	左右以外の場合	1.0 ≦ Is/Is0かつ	$0.3 \leq C_{TU} \cdot S_D$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)			$C_{TU} \cdot S_D < 0.125$	左右以外の場合		$0.25 \leq C_{TU} \cdot S_D$
鉄骨が充腹材の場合			$C_{TU} \cdot S_D < 0.14$	左右以外の場合		$0.28 \leq C_{TU} \cdot S_D$
鉄骨が非充腹材の場合			$C_{TU} \cdot S_D < 0.15$	左右以外の場合		$0.3 \leq C_{TU} \cdot S_D$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存壁式プレキャスト鉄筋コンクリート(WPC)造建築物の耐震診断指針」に定める第2次診断法						